WORK!DIVERSITY実証化モデル事業
（WORK!DIVERSITYプロジェクトin岐阜）
公開成果報告会

日本財団 WORK! DIVERSITY

～支援現場の事例から～

すべての働きづらさをテーマにした
ダイバーシティな就労支援への取り組み

岐阜市 Gifu City
Sustainable Support

千葉県 chiba prefecture
UWN ユニバーサル就労ネットワークちば

福岡県 Fukuoka Prefecture
福岡県就労支援協同組合

豊田市 Toyota City
一般社団法人 ワーク・ダイバーシティ・スタイル

Sustainable Support

本日のスケジュールについて

■議事次第

1. 開会のご挨拶
2. WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の実施報告
3. 利用者へのオンラインインタビュー
4. ダイバーシティ就労支援拠点との座談会
5. 地域の企業経営者とのトークセッション
6. 意見交換
7. 閉会のご挨拶

■配布資料

・WORK!DIVERSITY実証化モデル事業　公開成果報告会　投影資料
・アンケート

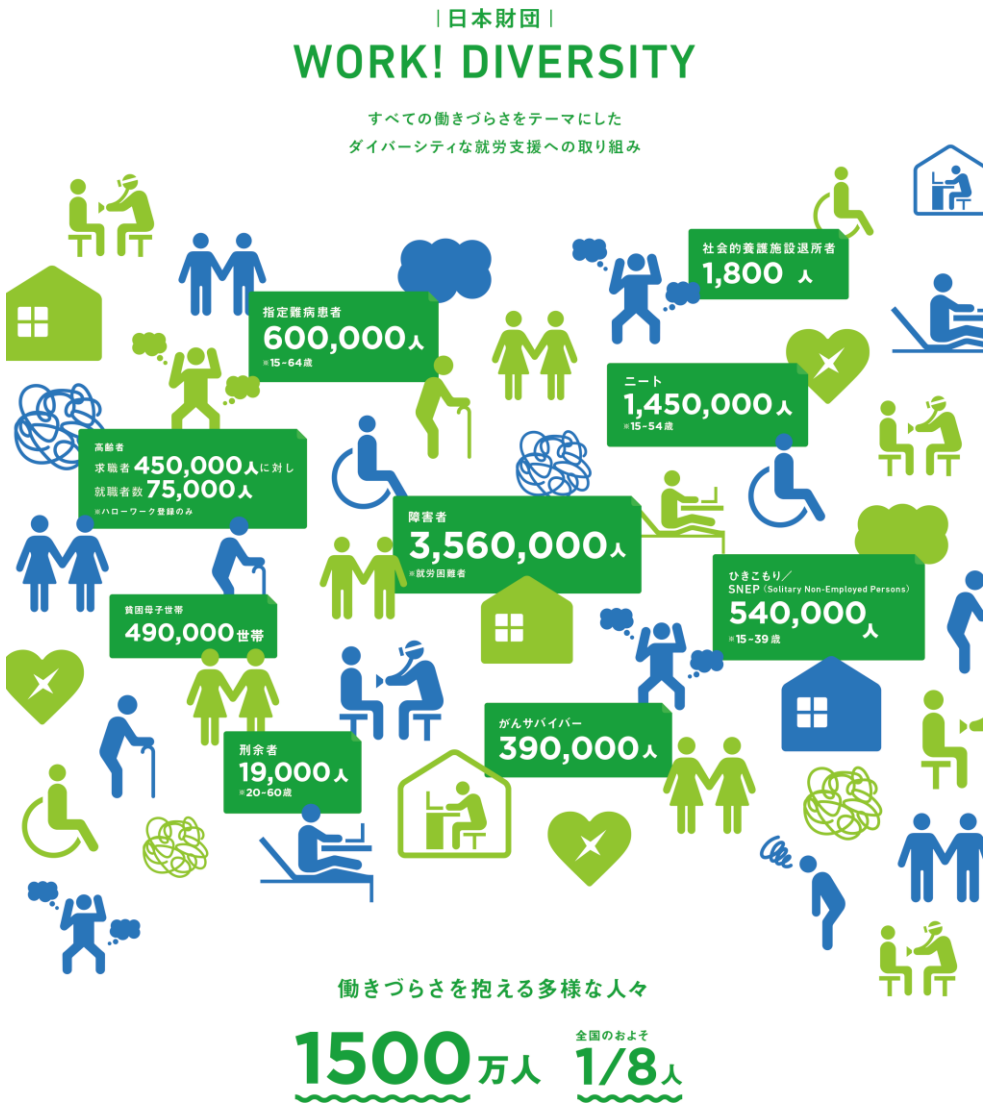
■お願い

・併設の有料駐車場は30分100円の利用料金がかかります。入庫後2時間まで無料となりますので、駐車券をメディアコスモス受付までお持ちください。2時間を超える駐車料金については自己負担となりますのでご了承ください。
・会議終了後はアンケートへのご協力をお願いします。本日ご提出いただいて結構ですし、後日インターネットからご提出頂いても結構です。ご協力よろしくお願い致します。

WORK!DIVERSITY実証化モデル事業について

Sustainable
Support

就労困難者に関する調査研究より（2018年日本財団）



※日本財団「WORK!DIVERSITY」公式WEBサイトより
https://work-diversity.com/

- ひきこもり
- ニート
- 難病者
- がんサバイバー
- 刑余者
- 生活困窮者
- LGBTQ
- 若年認知症
- 各種依存症

など、生きづらさ、さらには働きづらさのある方々が、のべ1500万人におよぶことが判明。ただし単純な積上で1500万人を超えると想定しており、中にはすでに働いている方、重複した要因にわたる方があると推定され、その実数は約600万人と思われる。

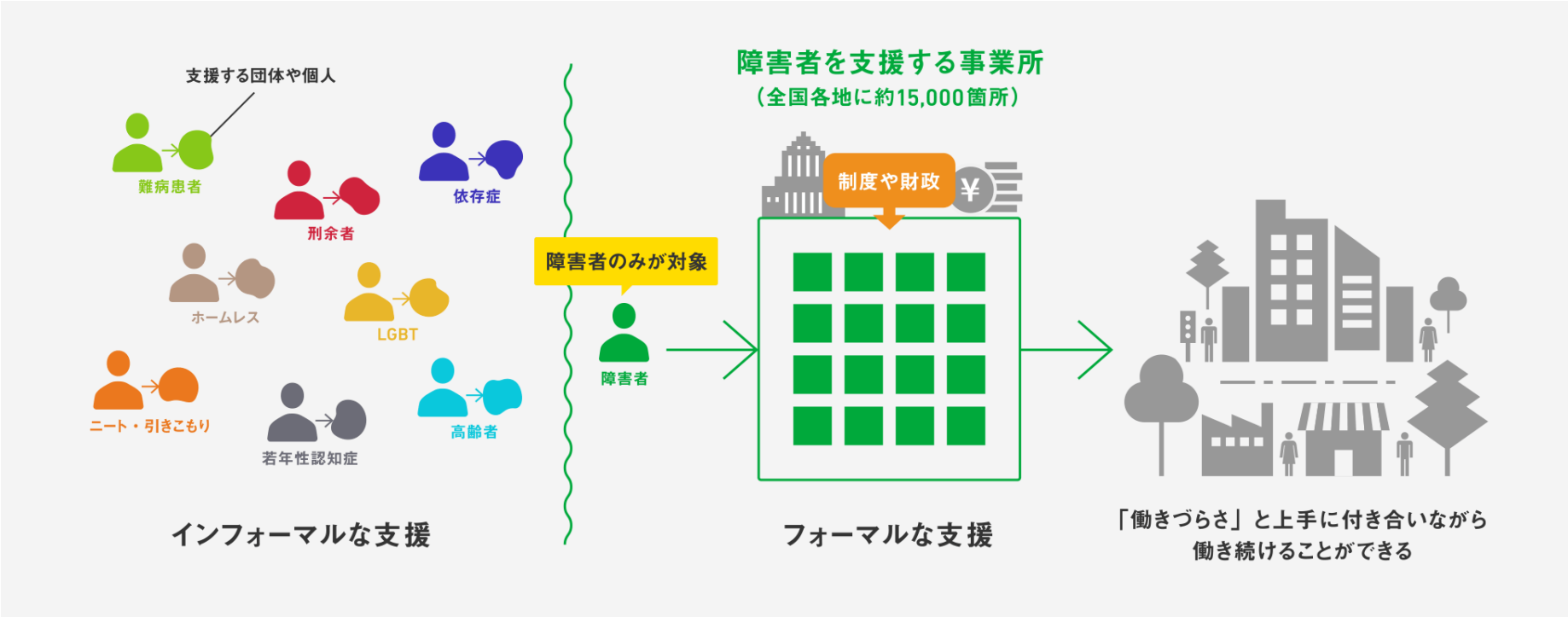
重複等を除き

約600万人

Sustainable Support

現行制度

■ 手厚い就労支援を受けることのできる障害者の就労支援事業所（移行支援、A型・B型等）は全国に15,000箇所あるが、障害者しかサービスを受けることが出来ず、障害福祉の支援対象外の就労困難者が受けられるフォーマルな手厚い支援はない。受けられる支援は地域によりばらつきがある。

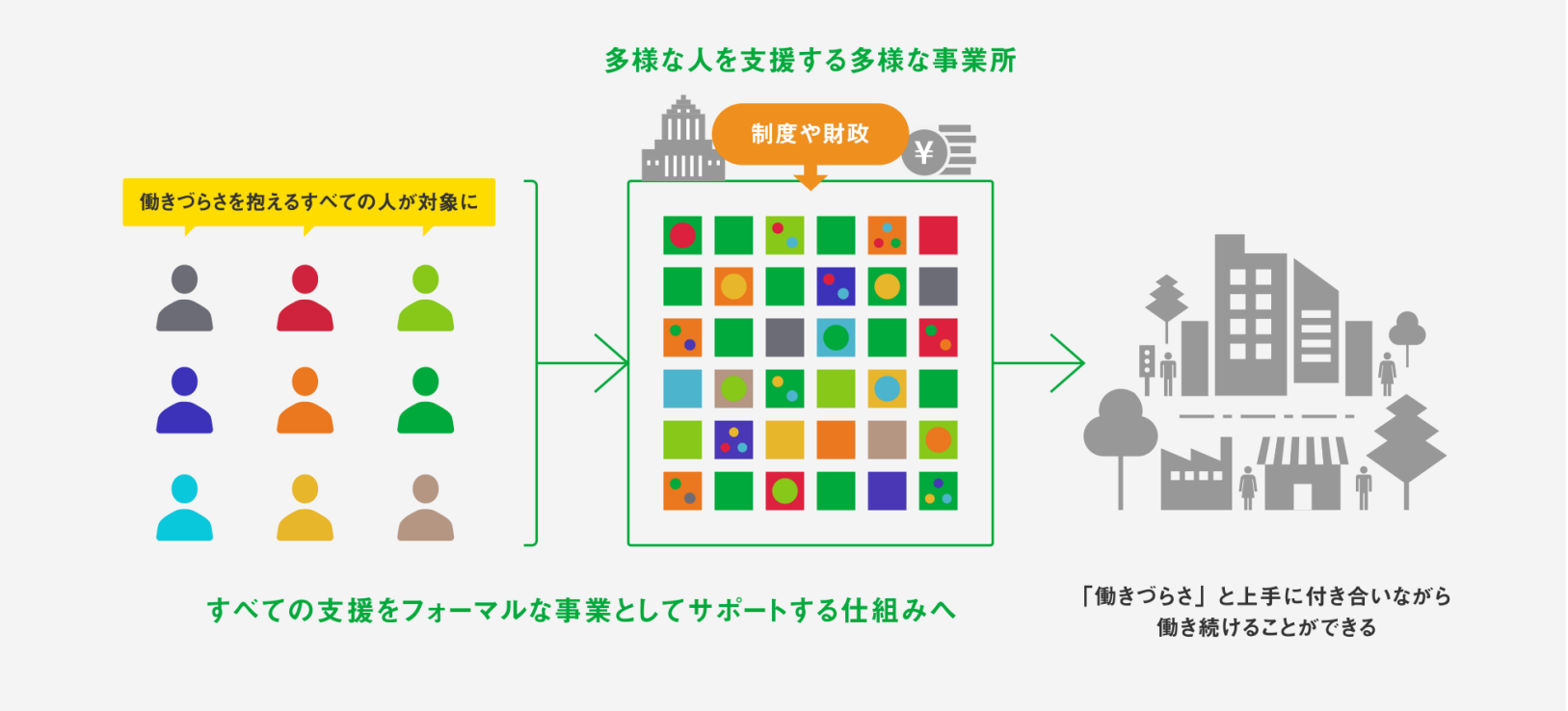


※日本財団「WORK!DIVERSITY」公式WEBサイトより
https://work-diversity.com/

”障害者”しか支援が受けられない

ワークダイバーシティ

■ ワークダイバーシティでは、働きづらさを抱えるすべての人が丁寧な就労支援を受けることが出来るよう、既存の障害者就労支援施設を活用し、ニーズに合った訓練・支援を提供することで多様な困難者の就労を実現する。



※日本財団「WORK!DIVERSITY」公式WEBサイトより
https://work-diversity.com/

多様な人が利用できる制度に

これまでの過程

■ 2018年から調査、構想がスタート。検討会を重ね、2022年9月より3都市で実証化モデル事業がスタートした。フォーマルな制度化を目指し、WORK!DIVERSITY政策実現会議を実施している。

◆ 2018年～　調査・構想

◆ 2019年～2021年　検討会

◆ 2022年～　実証化モデル事業スタート

2022年～　千葉県、福岡県、岐阜市

2023年度～　上記＋豊田市

2024年度～　全国10都市でのモデル事業実施を目指す

将来的にはフォーマルな制度化を目指す

WORK！DIVERSITY実証化モデル事業とは

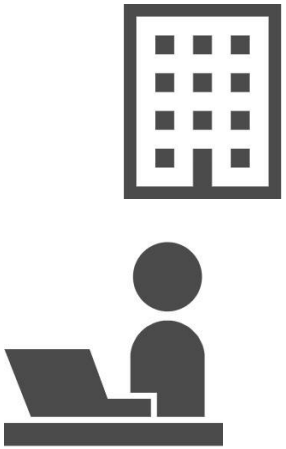
■ ワークダイバーシティ実証化モデル事業では、障害者が利用する就労訓練の施設に、障害者以外の働きづらさをかかえた人も受け入れ、就労に向けた訓練を提供する。

多様な就労困難者

ひきこもり、ニート、難病者、がん
サバイバー、刑余者、
生活困窮者、LGBTQ等

障害者施設

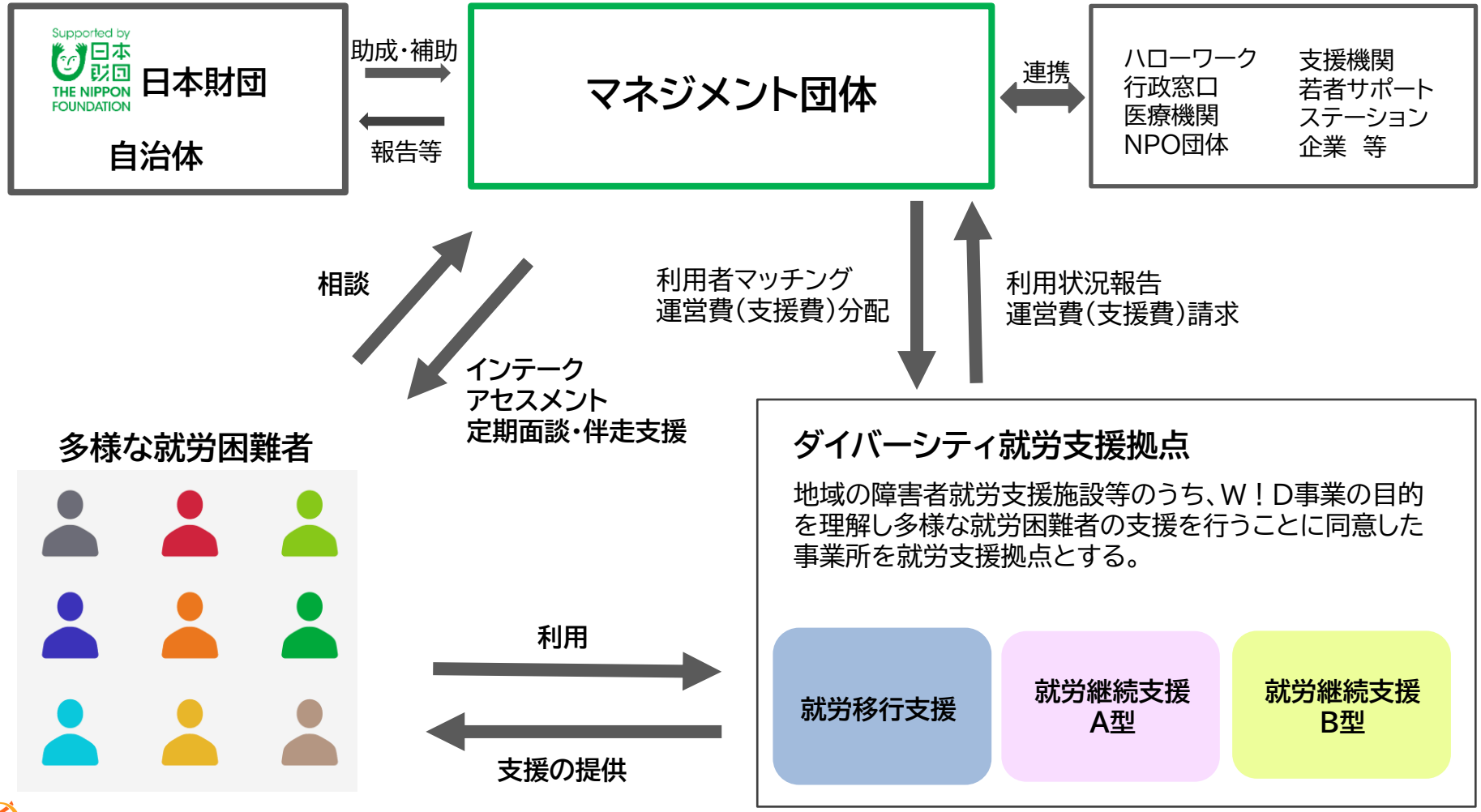
訓練（事業所により異なる）
ビジネスマナー、コミュニケーションPC
トレーニング、職場実習、雇用型訓練、個
別面談等



企業等での
就職を目指す

WORK！DIVERSITY実証化モデル事業実施スキーム

■ マネジメント団体が主となり事業を運営。利用者向けの相談窓口を設置し、インテークならびにアセスメントを実施し、ダイバーシティ就労支援拠点や地域の支援機関と連携しながら支援を行っていく。



Sustainable Support

具体的な主な利用対象者

- 想定している主な支援対象者はひきこもり、ニート、生活困窮者、難病者（指定難病以外）、がんサバイバー、障害者（既存制度を利用できない）、刑余者、LGBTQなどだが、そのほか、高齢者や各種依存症患者、若年性認知症患者、発達障害グレーゾーン、フリーター（非正規雇用、短期雇用等不安定な就労を繰り返す人）など多岐にわたる。また、それらの困難が重複するケースも想定。

ひきこもり

ニート

生活困窮

がんサバイバー

難病

障害者
※既存制度利用できない

刑余者

LGBTQ

利用の流れ

問い合わせ 相談受付

- 地域の支援機関等からの紹介や、チラシを見た就労困難者から電話やメールで問い合わせ受付

初回面談

- 主に対面にて、マネジメントセンター等で初回の面談を実施し、相談内容や利用の希望についてヒアリング

見学・体験

- 利用意思があり、利用可能である場合は、マネジメントセンターの相談員が付き添って就労支援拠点の見学・体験利用を実施

利用・訓練

- 見学・体験利用を通して利用の希望があれば、**ダイバーシティ就労支援拠点**の訓練プログラムの利用を開始（A型事業所の場合は面接あり）、利用期間中もマネジメントセンター支援員が伴走支援を実施

振り返り

- 利用開始時と1か月ごとにアセスメントを行い、定期的に振り返り面談を実施

就職等

- 就労スキルの獲得、自己理解の向上、就労意欲の向上等により、就職活動を開始し就職を目指す

Sustainable Support

岐阜市における
ワークダイバーシティ実証化モデル事業の実践

Sustainable
Support

岐阜市の現状

■ 岐阜市も全国各地と同じ状況で、人口減少かつ少子高齢化が起こっており、生産年齢人口が減少し、労働力の低下が懸念されている。

人口減少
少子高齢化

→

生産年齢人口減少
労働力低下

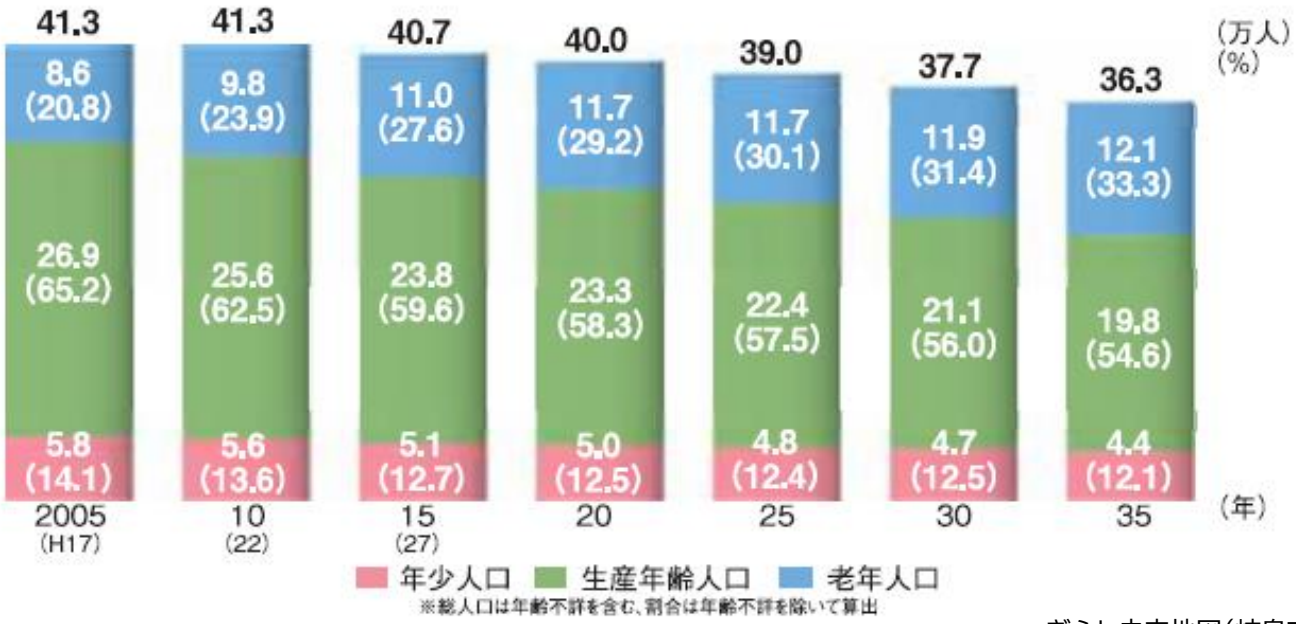


図10　市の総人口の推移と推計（2005年～2035年）
出典：国勢調査（総務省）、2020年以降は岐阜市推計、2005年は旧柳津町を含む（2006年に合併）

ぎふし未来地図（岐阜市公式ホームページより）

多様な働きづらさを抱えた人が働ける機会や環境の確保が必要

岐阜市におけるワークダイバーシティ

■ 岐阜市が2022年度に打ち出した政策が「岐阜市におけるワークダイバーシティ」。多様な働き方を支える取組みとして、3本の柱を立てた。

既存の支援制度の対象となっていない、多様な働きづらさを抱える人たち

若者　ひきこもり　LGBTQ＋　刑余者　がんサバイバー

ニート　女性　高齢者　難病者　生活困窮者　外国人

↓

多様な働き方を支える取り組み

テレワークを活用したショートタイムワーク事業

WORK!DIVERSITY 実証化モデル事業

超短時間雇用創出事業

↓

誰もが自分らしく働けるまちに！

ワークダイバーシティ実証化モデル事業　就労支援拠点

■ 連携先である岐阜市内の6つの就労移行支援事業所・就労継続支援A型事業所を「ダイバーシティ就労拠点」と呼んでいる。モデル事業利用者はダイバーシティ就労支援拠点を利用し就労に向けた訓練や支援を受けている。

就労継続支援　A型事業所

ぎふ就労支援センター
IT（WEB）

ウィン
清掃・軽作業

就労移行支援事業所

ウェルテクノスジョブトレーニングセンター岐阜/IT・軽作業等

工房はばたき
製造補助・軽作業

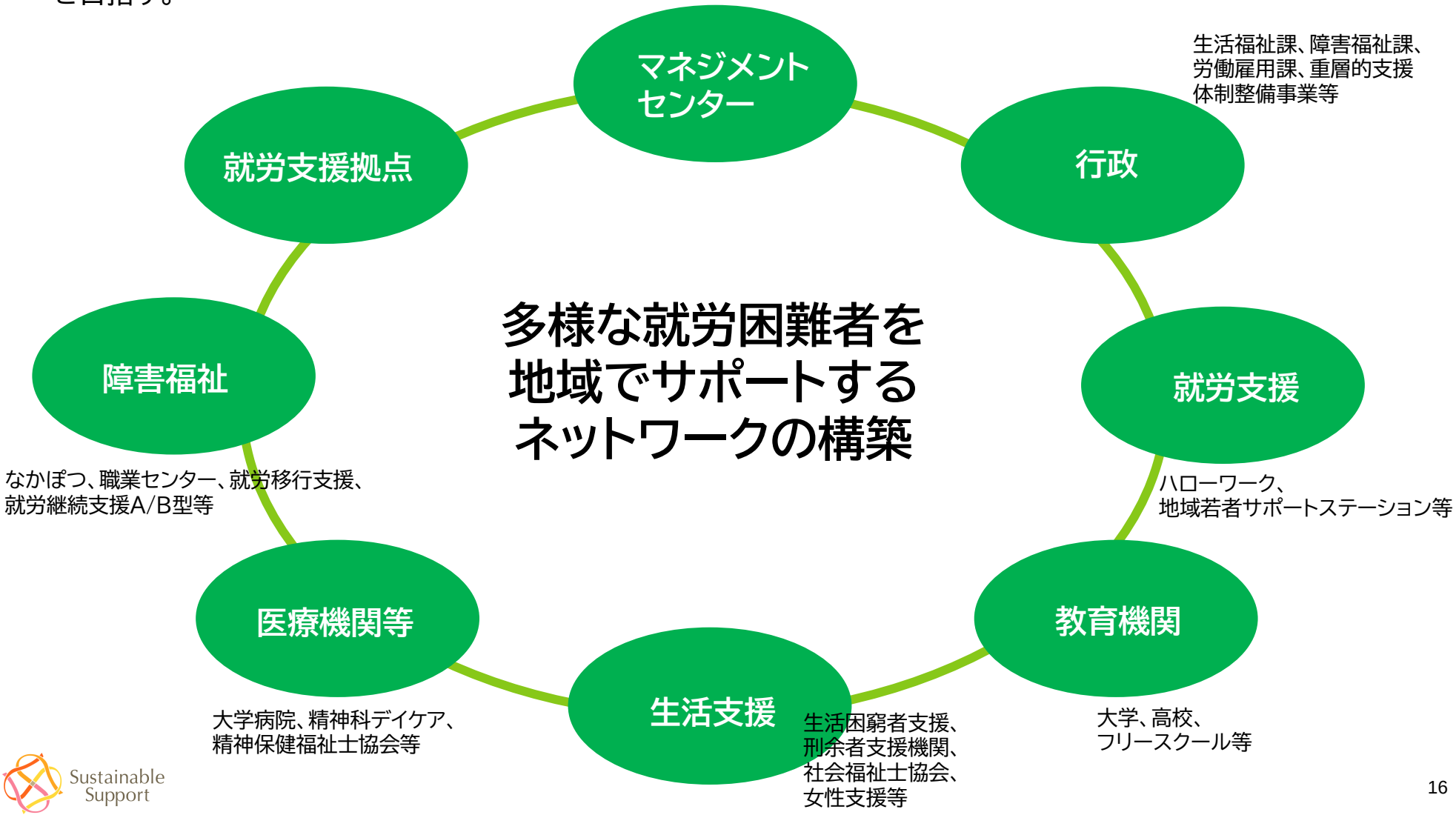
ノックス岐阜
ビジネスマナー等就職準備プログラム

ワークサポートあすなろ
清掃・軽作業

Support

地域連携体制の構築

■ 多様な就労困難者を支えるために、「ダイバーシティ就労推進プラットフォーム会議」を開催し、ネットワークを構築。行政や就労支援機関のほか、医療や教育、企業等との連携をはかり、領域を超えて顔の見える関係性づくりを目指す。



Sustainable Support

ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議の振り返り

■ ダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議のこれまでの主なアジェンダは以下の通り。会議で出された意見を岐阜市のモデル事業に反映しながら進めてきた。

第1回 R4.11
- 本事業内容の理解と現在の状況共有
- 岐阜市における就労困難者の把握と必要な支援を地域の関係者と共有する

第2回 R5.3
- 本事業の初年度における成果と課題を共有し、今後に向けての総括を実施
- 多様な就労困難者が活躍できる地域づくりや社会資源マップについて検討する

第3回 R5.7
- これまでの成果報告と支援者からの訓練状況、社会資源マップ素案について紹介
- 地域企業のインタビューを通し、必要な支援や体制について考える

第4回 R5.11
- これまでの成果報告と利用者の事業利用における変化や利用者の声を紹介
- 地域の支援機関と企業が意見を交わし、地域のワークダイバーシティ推進について検討

第5回 R6.2
- 本事業の2年目における成果と課題を共有し、今後に向けての総括を実施

Sustainable Support

社会資源マップについて

■ 初回会議の意見交換会では、他団体の名前は知っていても支援内容を詳しくは知らない等の意見が多数あったため、支援機関同士の連携を促すために社会資源マップを制作した。

働きたいが機会が得られない市民が活躍できる地域づくりにむけて、
地域の支援機関や医療機関、教育機関、NPO団体、企業等との連携を促す

■構成

・岐阜市における社会資源全体マップ（対象者・支援内容別）

・就労相談におけるアセスメント項目別の支援先一覧

・各支援機関情報の詳細

■資料の使用にあたってのルール

お願い①　こちらは支援機関の皆様にお使いいただく資料です。当事者へ資料を提供しないでください。
変更されている可能性もあるため、支援機関へ確認してから当事者の皆様へ情報をご案内ください。

お願い②　こちらの資料はダイバーシティ就労推進地域プラットフォーム会議にご参加頂いている皆様に提供しております。他機関へ提供しないようお願いします。

Sustainable Support

18

岐阜市WORK!DIVERSITY実証化モデル事業
～WORK!DIVERSITYプロジェクトin岐阜～
実施・成果について

Sustainable
Support

これまでの実施状況の概要

■ 2022年9月に事業を開始以降、2024年2月26日までの「WORK!DIVERSITYプロジェクトin岐阜」における実績等の概要について、下記に整理した。

問合せ 135人 → 受付・インテーク 77人 → 見学・体験 44人 → 利用決定 28人 → 就職 5人

【リファー先】

・ぎふ就職氷河期世代応援プログラム
・岐阜市生活・就労サポートセンター
・障がい者就業・生活支援センター
・超短時間ワーク応援センター
・難病相談支援センター
・ジンチャレ
・障害者職業センター
・ひきこもり地域支援センター
・ハローワーク専門援助
など・・

【参考】
岐阜市における就労者数
（就労移行支援事業所を利用し、一般就労した方の総数）
2021年　32人
2022年　16人
※岐阜市障がい福祉課より

【最近の利用に至らなかった理由】
- 岐阜市ワークダイバーシティの別の事業を希望しており、本事業の対象像とは異なるため
- 親からの問い合わせが多く、本人は動けない又は必要としていないため、支援に繋がらない
- 本人が求めている支援とは異なるため
- 働きたい気持ちはあるが、まだ心と身体が就労できる状況にないため

Sustainable Support

利用者から見える傾向について

■ これまで本事業を利用した28名について、属性や成育歴、特性を以下にまとめた。

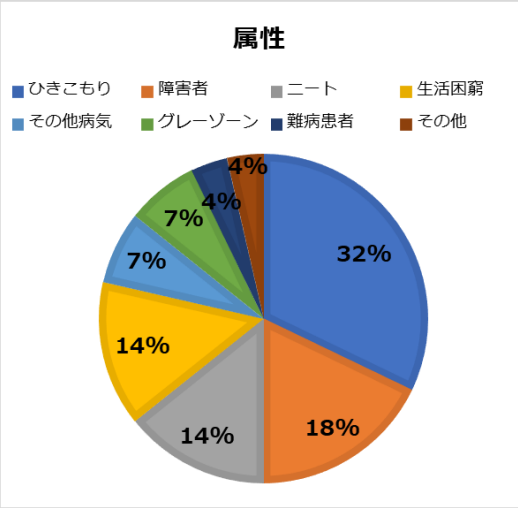
●利用者の属性について

- 利用決定となった28名中、ひきこもり・障害者が半数を占めた。次いでニート、生活困窮が4名であった。困難要因が1つでなく、複数重なりあっている方は全体の1/3を占めている。

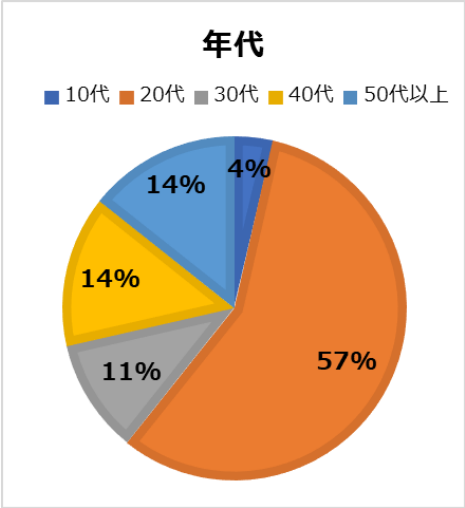
●利用者の年代/学歴/経歴について

- 20代が一番多く57%、10～30代で7割を占めており、若年層の利用者が多い。
- 学歴では中退者が25%、中卒を含めると約3割となる。学校を卒業してもその後正規雇用経験はなく、非正規雇用で働いている方が半数を占めている。
- アルバイト含め就労経験がない方は14%、非正規雇用での経験しかない方は39%と多い。正規雇用での就労経験者は半数占めるが、途中で何らかの病気・障害で退職をしている方が多い。

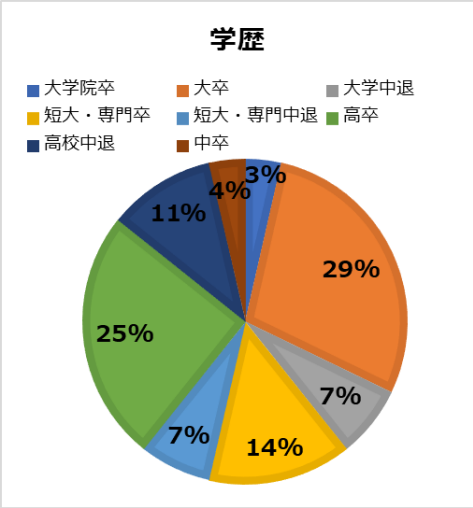
■n =28



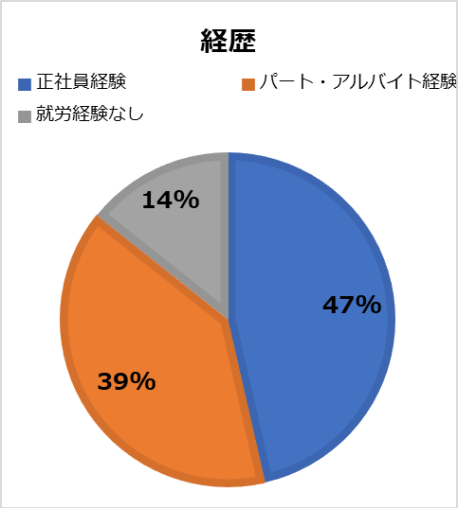
■n =28



■n =28



■n =28



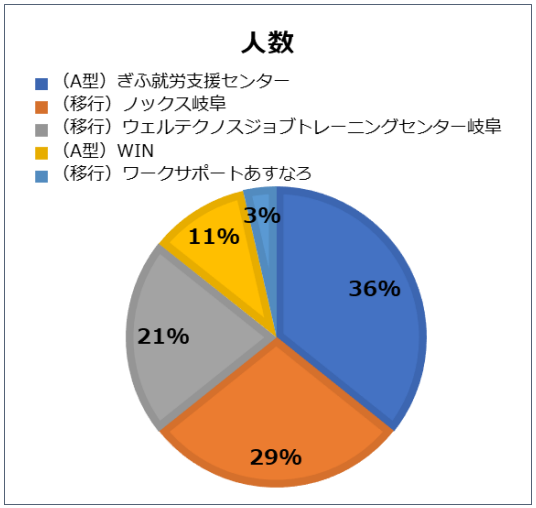
利用者の利用状況について

■ これまで本事業の利用を決めた28名について、利用状況を以下にまとめた。

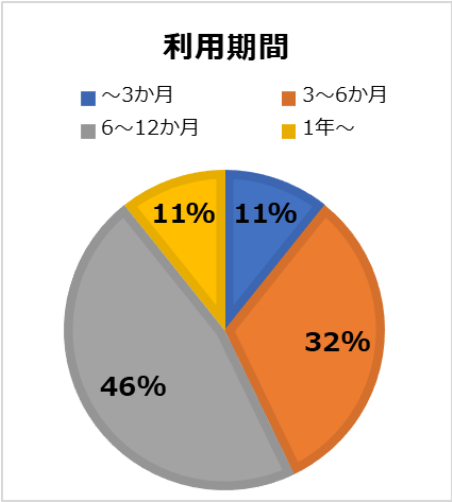
●利用している機関とその進捗について

- 利用決定となった28名は、就労継続支援A型事業所と就労移行支援事業所におおよそ半数ずつ利用している。
- 利用期間が半年越える方が約6割を占めている。利用期間は1年を上限としているが、マネジメントセンターやダイバーシティ就労支援拠点の検討会により、期間延長する利用者もいる。
- 利用日数は週5日が73%と安定して訓練に参加できている方が多い。週5日参加している方の半数は在宅訓練を受けている。
- 利用期間1年を目途に、一般就労、もしくは福祉就労に向かう方が増えてきている。福祉就労を選択される方は、過去若しくは現在も通院している方が多いが、利用中に障害受容する方もいる。

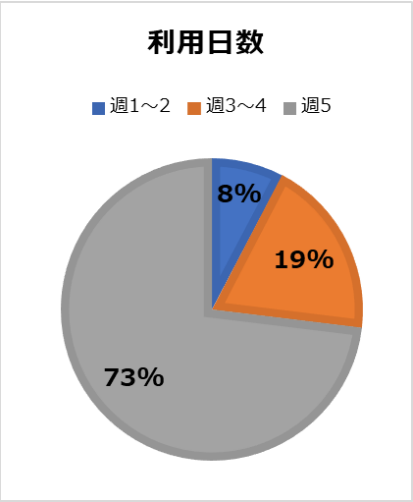
■n =28



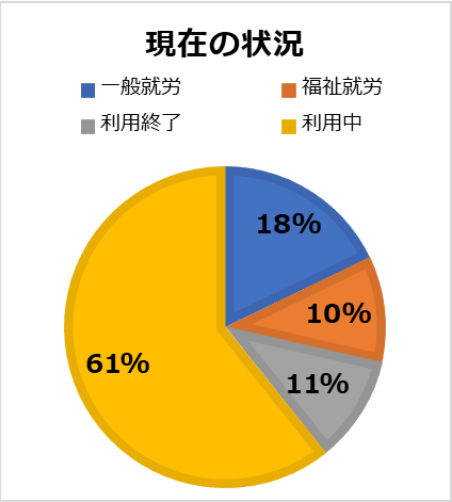
■n =28



■n =26



■n =28



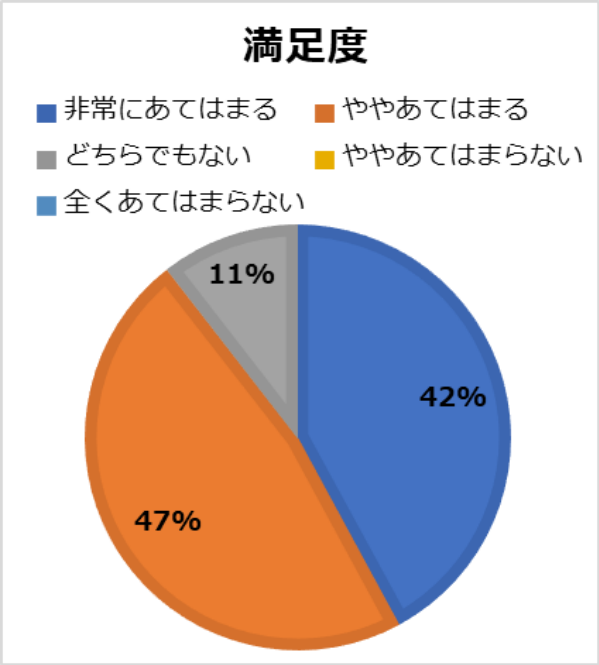
利用者アンケート/満足度調査

■ 2024年1月、利用中の19名にアンケート調査を実施した。

●本事業を利用して満足を得られたか？

- 「非常にあてはまる」「ややあてはまる」が約9割を占めており、概ねの利用者が利用して満足を得られていると言える。

■n =19



「非常にあてはまる」を選択した理由

・制度を利用して就労移行支援事業所で訓練を行ったことにより、満足のいく就職活動が出来ているから。
・利用する前までは多少のやる気があってもどうしたらいいのかや自信も無かったが、自己理解も深める事もでき、レベルに応じて様々な事を学べ、自信にも繋がり、前向きになれたので。
・新しい気づきがあったり、自分のためになってると思ったからです。
・既存の救済システムの枠では就労支援を利用できない立場や境遇であったが、そういった社会の枠からこぼれ落ちた存在に光を当てていただき、支援を受けることができたため、非常に満足しています。

「ややあてはまる」を選択した理由

・自分の人生の役に立ったと思うから。
・不安なことがあったらすぐに相談に乗って頂けるところが、自分にとってすごく楽になるからです。
・最初は戸惑いや不安もあったけど、まだ十分ではないが、一番の課題だったPCスキルを基礎から習得出来たし、様々な講座等で新しい知識を身に着けたり、グループワーク等を通して、人間関係の大切さを改めて学んだり、今まで分からなかった自分を知ったりする中で、自分なりにステップアップ出来ているし、自分への自信に繋げていけてると感じているから。

「どちらでもない」を選択した理由

・自分では、進んではいってはいないと思います。

Sustainable Support

利用者アンケート/利用開始前との比較

■ 2024年1月、利用中の19名にアンケート調査を実施した。

●心身の状態が安定したと感じている

約6割の利用者が「あてはまる」を選択。残りは「どちらともいえない」であった。訓練の進捗度にもよるが、利用により心身が安定したと感じている方が多く、効果があると言える。

●人と関わる機会(遊ぶ・学ぶ・働く等)がある

「非常にあてはまる」が半数、「ややあてはまる」を含めると約7割を占めている。人との関わりが増えたと感じているが多い。

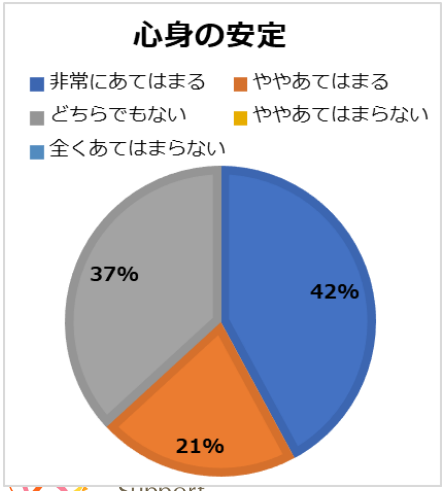
●「自分にできる事・できない事」「得意な事・苦手な事」を理解できている

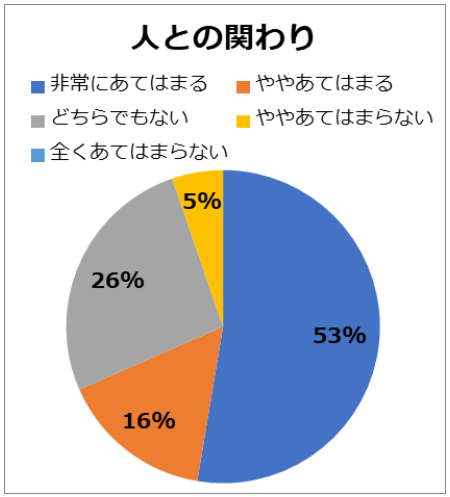
7割以上が「あてはまる」を選択している。訓練により、利用者自身の「自己理解」は進んでいると言える。

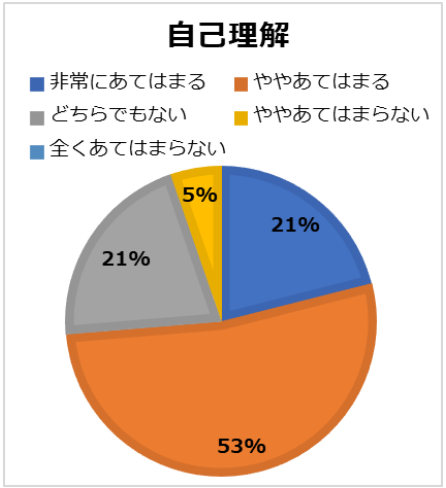
●自分の考えを整理して相手に伝えることができている

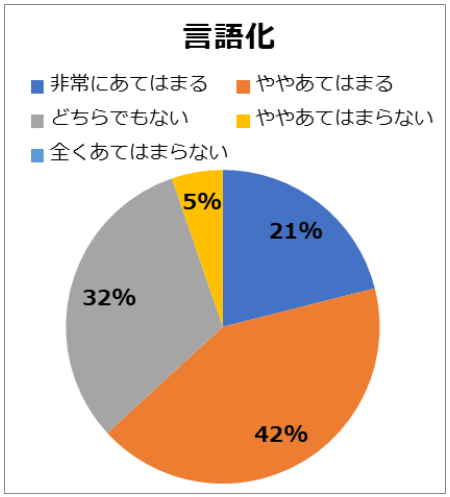
約6割が「あてはまる」を選択しているが、残りは「どちらでもない」「あてはまらない」を選択。自分の意思を伝える事には訓練の余地がある。

■n =19









利用者アンケート/就労について

■ 2024年1月、利用中の19名にアンケート調査を実施した。

●利用開始前に比べて、働きたい気持ちがある

約7割の利用者が訓練を利用し、就労意欲が高まったを選択。訓練は就労意欲醸成の効果があると言える。

●利用開始前に比べて、自分の意思や考えで今後の職業選択・進路について決めることができている

約6割が「あてはまる」を選択しているが、残りは「どちらでもない」「あてはまらない」を選択。

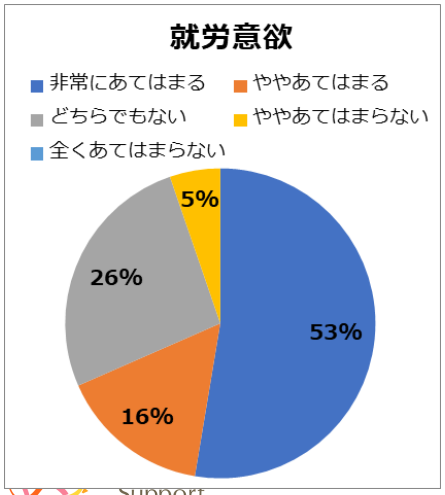
●今後の進路や就職先について、具体的な希望がある

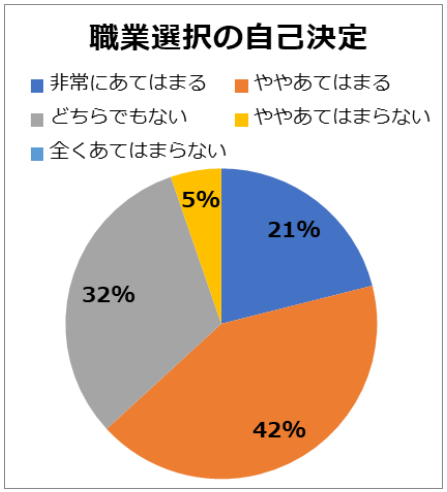
約6割が希望の進路が明確になっているが、「あてはまらない」が2割いる状況。訓練の進捗にもよるが、まだ進路を検討してる段階の方も多い。

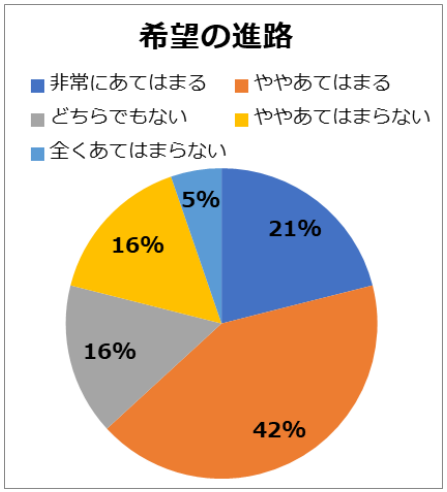
●今後の進路を実現するために、情報収集や求人検索、応募等の具体的な行動を進めている

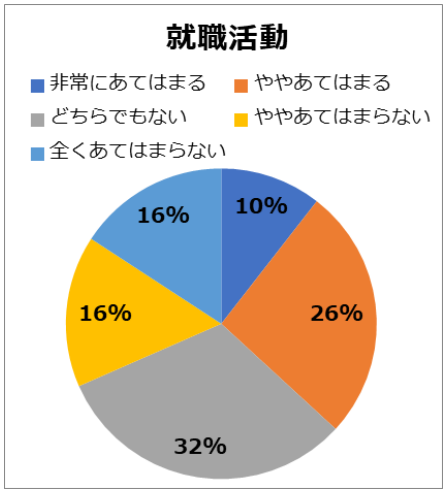
「あてはまる」「どちらでもない」「あてはまらない」が同じ割合でいる状況。希望の進路はあっても、まだ具体的行動には移せていない方が多く、支援が必要と言える。

■n =19









WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の成果と課題

Sustainable Support

各地域の成果について

■ WORK!DIVERSITY実証化モデル事業を実施している3都市の実績について、以下に掲載した。

千葉県や福岡県は支援機関からの問合せがほとんどだが、岐阜市は広報ぎふやフリーペーパー等の広告やホームページ、チラシからの問い合わせが半数を占めており、今まで支援機関に相談をしたことがない利用者が多い事が特徴として挙げられる。

	問い合わせ	初回面談	利用者数	就職者数
千葉県 （2023年9月30日）	193件	105名	60名	8名
福岡県 （2023年11月24日）	126件	69名	45名	5名
岐阜市 （2023年12月1日） （2024年2月26日）	119件 135件	69名 77名	26名 28名	3名 5名

WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の成果

- WORK!DIVERSITY実証化モデル事業の成果について、他地域の声も反映したところ、以下のように整理することができる。

■既存の福祉制度等の対象ではない人に支援を提供可能

■多様な就労支援事業所から選択できること、個別支援計画により個別的な支援が可能なことから、多様な働きづらさへの対応が可能である

■日常的な訓練・場の提供が可能となった（つながりの維持）

■福祉的支援が必要にもかかわらず福祉利用につながらなかった人が、ワークダイバーシティをきっかけに福祉サービスを受けられるようになった

■地域に分野横断のネットワークが構築された

制度化に向けた課題

- WORK!DIVERSITY実証化モデル事業を今後制度化していくにあたり、考えられる課題について以下に整理をした。

■対象者へのアプローチ

- 地域ネットワークの構築・強化により、既存の支援機関では対応できなかった人がつながる
- 既存の支援機関につながっていない就労困難者へはどのようにアプローチしていくか

■支援の内容

- 受け入れる就労支援事業所の支援にばらつきがある
- 利用期間はどの程度が適切か、その期間で就職できない場合はどうするか
- 地域によっては(適切な)就労支援施設がない場合もある
- 地域特性やニーズによって他の支援との組み合わせが必要では

■就職

- 障害者雇用以外の就職支援は経験の無い就労支援事業所もある
- 雇用率等がない状況で企業側が雇用する理由(メリット)は何か
- 企業や社会への理解促進を同時に行う必要があるのでは